



1) 急斜面に造られた山の畑は、下から上へへと土をきき上げながらの畑仕事。そして、蕎麦や芋などを作ってきました。今でも当たり前のように、植物繊維で編んだ「藁(みの)」が愛用されています。
2) 「ごうしいも」と呼ばれる小さなジャガイモ。祖谷のごちそう「ごうしいも」は、煮崩れしにくく、モチモチとした食感があります。

落合集落の
野良しごと。



2



南さんが足の痛みを取ってくれたと信仰する「三所神社」。折りに付け、集落の人が参拝しています。



3

3) 石垣を積み上げて造られた落合集落は眺めの良いことでも知られています。野良仕事の合間に庭先で味わう一服のお茶。山暮らしで味わう極上の時間です。

4) 干し柿・もちきび・カンコロ(干芋)など、山の暮らしには欠かせない常備食が庭先を彩ります。

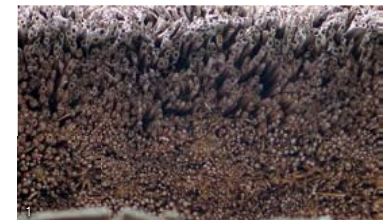
5) 獣害から懸命に畑を守る番犬も山暮らしの心強い相棒。



5



4



1) 落合集落の民家は、今もなお茅葺き屋根が残っています。
2) 落合集落ガイドの南さん。
3) 古民家宿泊施設の内部



3

集落が力を合わせる

「落合集落」が人々に愛されるもう一つの理由。それは、「こが人力のみで生き抜いてきた祖先の暮らしを今なお教えてくれる村でもあるからです。急斜面の暮らしは今も大半は人力によります。小型のトラクターですら入りようがなく、狭い面積の畑仕事も機械に頼ることはできません。毎年雨や雪で崩れてくる石垣。石垣を築き直し、鍬ごとに土を上げ、落合の暮らしは守られてきました。」

生まれ変わる古民家

落合集落では、家を建てるのも屋根を葺くのも、つい最近まで集落の人々が茅を持ち寄り、力を合わせて行ってきました。そうして、江戸時代から建てられたという古民家が残されてきたのです。けれども、集落の高齢化は止めようがなく、このままでは落合の集落を守っていくことはできません。そこで立ち上がったのが東洋文化研究家のアレックス・カー氏を中心とした「桃源郷祖谷の山里」プロジェクト。「日本の山里の美しさや伝統を、今にあつた形で、持続可能なものとして残していく」というもので、外見は古民家の風情を残しながら、空調設備や床暖房などの最新設備を備えた宿泊施設が次々と誕生しています。

三所神社の奇跡

宿泊客に人気を呼んでいるのが、落合集落に住む南さんによるガイドツアー。落合集落の氏神さま「三所神社」に合祀している「聖神社」の移築の際、南さんは人力仕事の逸話として不思議な体験をしています。集落の12人の男たちが、力を合わせて大岩を運ぶことになりましたが、以前から南さんは足が痛く、この日もとうとう役に立たないと思いつつ、どうにかこうにか手伝いをしたそうです。すると翌朝、痛かった足がうそのように治っていました。